

ブループラネット賞

稲宮 健一

旭硝子（AGC）財団主催の今年のブループラネット賞顕彰会に出席した。環境保全に寄与した人を毎年顕彰し、その講演を拝聴した。一九九二年は後にノーベル賞に輝いた真鍋淑郎博士で、今年はマイクロプラスチックの発見他、二件である。

一件目はR・トンプソン教授（英国）他二名、と二件目はD・グハハ・サビール教授（ベルギー）で、ここでは、一件目の内容を紹介する。

題目は「マイクロプラスチック」の発見である。海岸にプラスチック・ゴミの散乱をよく見ると、この研究は世界中で廃棄され、それらが細かくなって、地球上にどのように拡散、分布しているかを追求する研究である。着手は一九九〇年だが、その頃本件に関する論文はほとんどなかった。マイクロプラスチックは五mm以下の小さいプラスチック片と定義されているが、今はそれより小さい1mm以下の顕微鏡サイズのものすべてと定義されており、深海から高山に至る広範囲に拡散し、大気中にも浮遊していることを発見した。

教授は海洋では動物プランクトンの体内にマイクロプラスチックがあることを初めて確認した。北極では雪の中に混ざって降ってくることもある。特に海洋に関しては食物連鎖で、魚類に影響を与えることが考えられる。今のところ、PCB、ダイオキシン、DDTのような毒性もつ可能性は低いが、世界ではプラスチックの利便さから大量に生産されている。例として日本では年間三〇〇億枚のレジ袋が生産されて、容器以外にも化粧品粒や、普段の服を洗濯したときの排水の中にごみとして下水道に流される。対策としては、ゴミとして、海洋投棄させないことや、プラスチックの代替品の開発と使用を進めることが必要とのこと。

二〇二一年に英国でのG7の議題はCOVID、気候変動、自由貿易であり、プラスチック汚染への関心が低かったが、最終的に盛り込まれた。また、他のテレビ番組ではプラスチックを捕食する微生物が存在するとも放送されていた。